

1. 日 時 : 2016年5月11日(水)17:30-19:00
2. 出席者数 : 160名
3. 主な質疑内容 :

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

- Q. 2015年度の中下流事業の損益は、第2次中期経営計画の目標値を上回ったとの説明があったが、中下流事業をどう評価しているか。また、上流事業から中下流事業に投資のウェイトをシフトするとの説明があったが、今後の投資スタンスについても教えていただきたい。
- A. 中下流事業の損益については、原油安・円安による損益改善効果が含まれており満足していない。2015年度は資源価格の下落により、上流事業の損益は悪化、中下流事業の損益は改善したが、その結果だけをもって上流事業への投資を縮小し、中下流事業への投資を拡大することはない。
- Q. 上流事業について、今後は投資を抑制し、低油価水準に耐えられるポートフォリオを目指すとの説明があったが、どのような油価水準になろうとも投資を拡大しないつもりか。
- A. 上流事業への投資は、収益性が高く安定供給の基盤となる成長戦略と考えている。バランスシートやポートフォリオの油価耐性などを考慮しながら検討していきたい。
- Q. 2016年度の業績見通しの説明の中でコスト削減が出てこないが、在庫影響除きの利益がそれなりに出ているのであまり削減しなくてもよいという考えなのか。
- A. コスト削減については、上流・中下流の全事業領域に亘り積極的に取り組んでいる。また、資産の売却や投資の見直し、リターンを早期に回収できる案件への投資を優先して行うなど、キャッシュフローの改善にも積極的に取り組んでいる。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。